



3学年担任から卒業生へ

何年前だろうか。

3年3組担任 内山 登志行

自分の高校生活を思い返すとまず最初に思い浮かぶのは部活動(テニス)である。平日は19時まで、休日は9時から日が沈むまで土日祝日も関係なく練習した。練習がきつすぎて仮入部に50人近く来てても本入部は15人程度であった。途中で退部する人も後を絶たなかった。風呂で寝てしまい起こされることがあった。夕飯中に、食べながら寝てしまいむせて起きるなんてこともあった。日々、限界まで体力を使いきっていた。1時間目の授業中に寝てしまい、チャイムで起きると3時間目の終了のチャイムで2時間目はどうした。。と嫌な汗をかいたこともあった。大会では、プレッシャーからトイレで吐いてから試合に臨むなんてこともあった。社会に出てから嫌なことやきついこともあった。そんな時高校時代の部活動を思い出して『あの頃に比べれば大したことない』と思い頑張ることができている。

部活動引退後は受験勉強の日々であった。それまでの勉強への取り組みはひどいものであった。当然成績も下の方で推薦なんて考えることもできなかった。そのため、勉強して一般受験で戦うしかなかった。平日は学校が終わると塾に移動して21時まで、休日は9時から21時まで塾の自習室で過ごした。嫌で逃げ出したいくなる時も多々あったが、そんな時は息抜きとして現代文の過去問の小説を読んだ。3年冬休み前の3者面談で、志望校への合格は厳しいから進路変更をするように担任から言われた。それを聞き父親がそんな必要はないと言いながら怒った。人生で父親が怒ったところをこの場面以外で見たことがない。3月中旬の国公立の後期試験まで粘り、大逆転で合格することができた。高校に報告に行った時、先生たちがみな立って拍手で出迎えてくれ(静岡県の高校は職員室がある。)、担任や顧問、校長、教頭など多くの先生方に握手を求められ、自分のしたことの大きさを知った。3年生の自宅待機期間、3年生でただ一人、朝から教室に登校し学校が閉まるまで勉強し塾に移動した。卒業式の日も遊びに行こうと誘われたが断り、残って、学校が閉まるまで勉強し塾に移動した。みんなが卒業旅行に行っている間も学校が閉まるまで勉強し塾に移動した。その様子を多くの先生方が見てくれていたらしい。

人には、本気で腹をくくってやるべき時があると思う。別の言い方をするとやる気スイッチを入れるときである。自分は、大学受験と教員採用試験であった。大学受験を本気で取り組めたのは、後ろめたさからである。誰にも言ったことはないが、3年の夏休み、夏季講習に申し込み(約10万円)1回だけ行き、2回目からは行かず街でふらふらしていた。内容が難しく付いていけなかったことと、気持ちを切り替えられなかったからである。夏休み後、親へ申し訳ない気持ちで一杯になり、友人の誘いをすべて断り、携帯の電源も切りすべてを排除して上記のように勉強に取り組んだ。

現在、大好きで大切な家族に囲まれ過ごす日々は幸せである。この幸せは、あの時頑張ったからあるのだと思う。君にとってのその時は、いつであろうか。君にとってのその時は、新しい場所で新しい挑戦をする今ではないだろうか。卒業おめでとう。

梓水祭



入学式



Commencement

3年1組担任 若林 正太郎

コメント(Commencement)という英単語があります。元々「始まり」という意味の英単語ですが、アメリカでは「卒業式」という意味でも使われるようになりました。私がこの単語を初めて見たとき、「なぜ『卒業式=始まり』になるのか?『卒業式=(学校生活の)終わり』ではないのか?」と違和感を覚えました。なぜ『卒業式=始まり』になるのか、みなさんはわかりますか?なぜかというところ、「『卒業を迎える』ということは、『新しい生活や人生が始まる』ということ」と考えられているからです。みなさんはこれから自分自身で選択した道を歩んでいくことになります。高校のこの三年間はあくまでも通過点で、みなさん一人ひとりの人生が始まるのはこれからののです。

「新しい生活や人生」をこれから始めていくみなさんに知っておいてほしいことが2つあります。1つ目は「これから先の人生で多くの喜びや感動が待っている」ということです。これまでの人生でできなかったこと・やってこなかったことにも積極的にチャレンジして喜びや感動の経験を増やしていきましょう。その経験がみなさんの人生をより明るいものにしてくれるはずです。2つ目は「これから辛いことや苦しいことも多くある」ということです。挫折したり、失敗したり、どうすればいいかわからなくなったり……そんな嫌なことも待ち受けています。しかしその経験を通して人間は成長することもできます。ぜひ苦しい時こそ顔を上げて踏ん張ってほしいと思います。…踏ん張ることができないほど辛いときには足を止めてもいいので、自分を大切にす人生にしてください。

最後になりますが、卒業おめでとうございます。みなさん一人ひとりが良き人生を送ることができるよう心から祈っております。

卒業する皆さんへ

3年2組担任 菅原 太地

私が高校を卒業した時のことを思い返してみると、はっきりとした卒業式の記憶はありません。ただただ高校生活が終わってしまうのが寂しく、仲の良かった友達と名残惜しんで、その日を過ごしていたのを覚えています。考えてみると仲間と高校生活を楽しく過ごしたことが、この仕事をしている理由の一つになっています。卒業後の4月からは浪人生活、一人で過ごし勉強する日々でした。運動以外で努力して目標を達成することを学んだ1年でした。将来教師になろうと考えて大学に入り、それから10年後の28歳でようやく教師として働き始めました。

今の皆さんと同じ高校を卒業する頃、近い将来についてこう考えていました。一つは生きていくため、一人前になるために、早く自分で稼いで食べていかなければダメだ。もう一つは若いうちにやりたいことをやっておきたい、おじさんになってから後悔したくない。大学在学中はスポーツに明け暮れ、その中で20代をどう生きるかを考えていました。結論として私は後者を選びました。大学卒業後は、様々な実体験を積みたくて海外に行きました。そして28歳でようやく目標にしていた仕事に就きました。結果として、一緒に高校を卒業した周りの人たちは経験積んだ社会人になり、自分はその年齢まで仕事の実績のない若者でいたわけです。この3月で50歳になります。十年ごとに振り返ってみると、40代は家庭と仕事、30代も家庭と仕事でした。でも20代はそれとは違ういろんなことができた、振り返ることのできる時間になっています。あの時、別の選択をしていれば、もっといい人生だったかもしれないと後悔することはありません。

皆さんは新しい生活のスタートを切ろうとしています。自分で選んだ道を、迷いなく進んでいきましょう。周りのことや社会の常識が気になることもあるでしょう。しかし自分の選んだ道なら納得して進めるはずです。もし本気で他の道を選びたくなったら、その時変更もできます。あとから振り返れば、数年間の寄り道は貴重な経験として自分の中に残ります。

4月から皆さんが充実した日々を送ることを、心から願っています。楽しいことはこれからたくさん待っています。活躍を期待しています。卒業おめでとう。